

2023年2月22日

長野県感染対策研究会
代表世話人 花岡正幸
長野県臨床検査技師会 感染対策委員会
担当者 新井恵理子

信州インфекションコントロール・サーベイランスシステム(SICSS)

による長野県各地区の耐性菌分離状況についての報告

～2023年1月データについての報告～

(データ集計日：2023年2月21日 集計対象施設数：61施設)

2023年1月のVRSA、VRE、多剤耐性アシネトバクターの分離はありませんでした。

上記に示す薬剤耐性菌は感染対策上、非常に重要な耐性菌です。疑わしい株が分離された場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

<MRSAの分離状況について>

長野県全体の分離率は7.06%でした。JANISでの全国の実分離率は6.02%（2021年 年報）です。中信、南信地区は分離率の上昇が認められた先月のまま横ばいに転じ、東信地区は微増傾向にあります。

<多剤耐性緑膿菌の分離状況について>

長野県全体の分離率は0.04%でした。JANISでの全国の実分離率は0.03%（2021年 年報）です。北信、南信地区より1例ずつ分離され、北信地区は新規分離、南信地区は2022年11月より同一施設から継続して分離中です。なお、1例でも分離が認められたご施設には、感染対策ご担当者様宛に別途メールにてご連絡申し上げます。

<第三世代セファロスポリン耐性大腸菌の分離状況について>

長野県全体の分離率は2.93%でした。JANISでの全国の実分離率は3.60%（2021年 年報）です。東信、北信地区では分離率の低下が認められましたが、中信地区は2022年11月から分離率の上昇が継続しています。

JANISで2015年集計分より用いられている第三世代セファロスポリン耐性大腸菌の判定基準よりも、SICSSでの判定基準の方が厳しく設けられているため、これらのデータは一概に比較はできません。なお、同一病棟または診療科から3例以上分離されているご施設には、感染対策ご担当者様宛に別途メールにてご連絡申し上げます。

耐性菌検出検査やSICSSデータ等につきまして、ご不明な点などございましたら下記担当者までお問合せください。

【SICSSのデータを用いた学術活動について】

SICSSのデータを用いて学術活動（学会発表や論文執筆など）を行う際には、必ず下記担当者までご相談下さい。また、学術活動の成果物の提出にもご協力をお願いいたします。

問い合わせ先
信州大学医学部附属病院 臨床検査部 堀内 一樹
TEL; 0263-37-3493、 e-mail; hori9000@shinshu-u.ac.jp